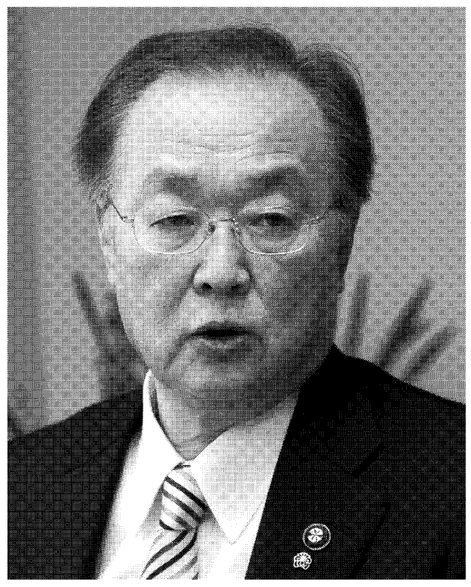
人口60万人の中核市へ前進、モノづくりの町 埼玉県川口市



川口市
奥ノ木信夫市長

モノづくりの町として活気溢れる埼玉県川口市は人口増加でまもなく60万人に達する見込みで、18年の中核市指定に向けた準備も着々と進めている。産業施策では新製品・技術の出展で企業マッチングの機会を促進する展示会の開催に力を入れるほか、中小企業の海外展開支援、そして市内企業の人手不足を解消するために外国人留学生の受け入れ体制も強化する。川口の産業展開を推進する行政・主要団体の最新動向を聞いた。

川口商工会議所
児玉洋介会頭

中核市指定に向け万全の体制

―2018年4月の中核市指定を目指しています。

「人口が60万人に近づく川口市は中核市にむけた準備についても万全の体制ができている。17年の3月定例会で市議会へ中核市指定の申出議案を提出し、可決後には6月の埼玉県議会を経て県の同意を頂き、その後8月頃に総務大臣へ中核市の指定申出をする。現在、川口市の人口は政令市を除き千葉県船橋市、鹿児島県鹿児島市に続き3番目である。中核市入りすれば、その時点で人口が3番目に多い都市となり、各市を引っ張っていくようなリーダーシップを発揮していきたい」

―企業支援策では中小企業の海外展開支援を強化しています。17年の川口経済の見通しは。

「17年中に埼玉県がベトナムで開催する展示会へ出展予定だ。モノづくりの町である川口の企業を支援する施策として、埼玉県の同展示会にブースを借りて川口企業の製品を出展させたい。海外で評価されれば企業の売上げも比例して上がるはずだ。企業が展示会で成果をあげるためにも事前の準備が大切になる。17年の川口経済は月例調査などからも緩やかな回復基調が期待され、川口市は製造業の景況感や売上高も全体としては回復基調にある。非製造業も川口は特に人口が増えていることが影響して雇用・求人も拡大し、手堅く伸びていることから回復にあるとみている。鋳物産業などへの支援策では外国人技能実習生に対する支援で宿泊施設建設の補助金を約2億円拠出する。耐震性を高めた建物を建設中であり、海外からの実習生の受け入れ態勢を強化する」

―17年秋の「第3回川口市産品フェア」開催に向けた取り組みは。

「市産品フェアは川口企業がブースで新製品・技術を出展することを通じてビジネスマッチングの機会を提供する行事で、15年に実施した第1回は3万6500人が来場した。16年も5万3600人が来場するなど堅調に伸びており、出展企業が1円でも多くの売上高につながるように川口市が支援していきたい。16年の第2回では、モノづくり企業の紹介だけでなく、新たな取り組みとして健康・医療面の観点から薬剤師会が初めて出展して血糖値測定が会場ですぐできるサービスなども提供した。測定結果で医者の検診が必要かの助言や、利用者の住所確認後にすぐ近くの医者に紹介状とともに訪問できる体制づくりを医師会、歯科医師会、薬剤師会の〝三師会〟の連携をもとに実施している。第3回では三師会の健康診断会のようなコーナーを拡充してみたい。また事前の出展希望企業数に会場スペースが追いつかなかったためブース確保にも改善を加えたい」

―東京五輪パラリンピックの聖火台に再び川口鋳物が採用される期待も高まっています。

「1964年の東京五輪時に川口鋳物で製造された旧聖火台に続き、再び2020年東京五輪で使用されるようPRを続けている。16年4月には東京都知事に再要望を出し、日本オリンピック委員会（JOC）にも聖火台にかかる要望書をすでに提出している。川口鋳物が聖火台に採用されるかは、開会式が開かれる五輪メーンスタジアムの完成間近の時期にわかると見通している。会場設計の段階ではまだわからないし、最終的な開会式の概要など決まってから判明するだろう。東京五輪に対する川口市のPRは聖火台関連だけでなく、川口市には鋳物の建築資材や安行地域の植木など緑化産業もある。川口がもつさまざまな産業の魅力を、埼玉県内で東京都に最も近い川口市から発信してもらいたい」

緑化産業に商機、人手不足解消に一手

―川口市内の景況感をどう見ていますか。

「注目している動向の一つに資源価格の変動がある。2016年後半から価格が上昇しはじめている。例えば17年2月上旬の時点で鉄は1㌧約2万円から4万円に値上がりしている。また石炭などもこれまでの1㌧40㌦から現在は約80㌦にまで上がっている。それらの資源価格が上がると他の資源にも動きが出始めてくる。そして資源を採取するには大型の鉱山機械が必要となる。いま建設機械メーカーで鋳物を扱っているところでは、16年の今頃は仕事が全然なかった。しかし、いまはもう全く間に合わないほど仕事が急激に増えている。これは資源国であるインドネシアなどで鉱山を保有する企業が、値段が安いときは保有する山の資源をあまり出さず、値段が上がれば一気にだすことが影響している。その動向に連動するように機械メーカーや関連会社の業務ニーズも急増する構造だ。一方、日系メーカーも過去の経験から、この景況感が1―2年と続くかわからないと見るのが現状で、景気の先行きは依然として不透明といえるだろう」

―川口商工会議所の17年の取り組みは。

「川口市内の中小企業の販路拡大や人材不足の解消支援に特に力を入れていきたい。川口商工会議所は川口ｉ―ｍｏｎｏ（いいもの）、ｉ―ｗａｚａ（いいわざ）ブランド認定制度で現在64製品を認定している。市内にはいいモノ・製品・技術はたくさんあり顧客市場も大きい。本来はもっと売れてもいいようなモノがたくさんあるが、思うように受注に結びついていないのが実情で商工会議所がバックアップする必要がある。各展示商談会などで商工会議所が確保するブースを企業に提供することで情報発信してもらうPR活動やマスコミ媒体に紹介してもらえるよう上手に働きかけていく必要がある。川口にはさまざまな産業がある。モノづくりをベースに機械を中心にした鋳物産業、そのほか伝統産業として緑化産業もある。緑化産業については、さいたま市では17年に『盆栽オリンピック』とも言われる世界盆栽大会が開催されるが、実は川口市も盆栽の販売量が非常に多い。しかし全国の知名度でも『盆栽といえば大宮』、と認知されているのも現状だ。商工会議所がうまくPRできればいいと思っている」

―緑化産業の拡大支援で課題になることは。

「緑化産業は領域が広く植木や造園、盆栽、農業なども含まれ産業として一体化させることが難しい分野だ。商工会議所では一昨年ほど前からこの支援の取り組みに力を入れている。同産業の若手を集めて手を合わせられるように、地域振興委員会が準備を進めながら緑化にかかる輸出入業の強化を検討している。商工会議所自体は緑化の輸出入を扱うことができないが、川口市役所には関連の支援事業があり動き出している。輸出入にかかる書類作成や免疫の問題もあり、川口市役所には同関連の専門家がいるので協力していきたい。川口商工会議所は小規模事業者支援法で中小企業を伴走型体制で支援する制度に手を上げて採択されている。やる気があるものの、どうやって事業展開していったらいいかわからない企業などを上手に救い上げ支援する事業を強化したい。一方で、埼玉高速鉄道（ＳＲ）と連携して外国人を対象にした盆栽を開く取り組みなども検討する」

―中小企業の人手不足も深刻化しています。

「川口市では鋳物関連、建設、サービス、介護業界などで海外の研修生を受け入れる体制を構築している。17年4月から11企業が、ベトナムから約30人を受け入れる予定だ。研修生の斡旋は2017年事業の大きな柱になる。今回の第1期がうまくいけば17年末から18年にかけて、現在の研修期間が1年・実習2年の仕組みを、研修1年、実習4年にして日本で約5年間働ける制度になる。宿舎については、川口鋳物工業協同組合の土地に宿舎を建設中で200人を収容できる。商工会議所で約60人の枠を取っている。販路拡大の手伝いや人材不足に対する人材斡旋などを一生懸命やっていきたい」

川口の市内企業を応援します

当公社では、産業の振興と地域経済発展のため、市内企業・市産品の紹介など、川口の産業の情報を発信するとともに、海外展開に対する個別相談の受付、展示会出展及び特許出願審査請求に対する助成金、新製品開発振興に対する奨励金や商談会の開催なども行っております。

公益財団法人 川口産業振興公社
〒333-0844
埼玉県川口市上青木3-12-18　埼玉県産業技術総合センター 7階
TEL048-263-1110　FAX048-262-8882
http://www.kawaguchi-net.or.jp

高品質の鋳物・納期厳守で供給

ユーザーと共に歩んで1,000年……
これまでも　これからも　それが「川口鋳物」の証・誇りです

私達は守ります

製造業のサポーティング・インダストリーとして
『素形材産業取引ガイドライン』をもとに
ベストプラクティス（望ましい取引慣行）を求めて

認証官公需適格組合
川口鑄物工業協同組合
理事長　伊藤光男
〒332-0011　川口市元郷2-1-3　TEL 048-224-6200　FAX 048-224-1536
http://www.kawaguchi-imono.jp/

商工会議所の“存在感の確立”　～地域中小企業とまちの元気をつくる～

川口商工会議所
THE KAWAGUCHI CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY

〒332-8522　川口市本町4-1-8（川口センタービル8階）
TEL：048-228-2220　FAX：048-228-2221
川口商工会議所　検索
www.kawaguchicci.or.jp